

国際ロータリー第 2680 地区
2024-25 年度 第 3 回行動計画委員会
議 事 録

開催日時 2024 年 10 月 23 日 (水) 15:00~16:00

開催場所 ホテル日航姫路 3 階 真珠の間

議事録作成人 委員 樋口 典明

次 第

1. 開会挨拶 城 守ガバナーエレクト

- ・ようこそ姫路へ
- ・当初、セミナーへの参加者人数が心配されましたが予想以上にたくさんの参加となり大変うれしく思っています。
- ・「行動計画とは何ぞや」を理解してもらうために出前セミナーをこれまで実施してきて、よく理解していただいたと思う。
- ・この後の西播第 1・第 2 グループの出前セミナーもよろしく願います。

2. 出席者 城守 GE、矢野宗司地区ラーニングファシリテーター、白井務子 GN、
三木健義次期代表幹事、山根章次々期代表幹事、秦紳一郎ガバナー指名ガバ
ナー補佐、武本正照ガバナー指名ガバナー補佐、前川忠範会員維持増強委員長
高瀬英夫行動計画委員長、永瀬隆一行動計画副委員長
行動計画委員会委員：篠倉庸良、和田孫博、今田学志、津田豊、岡田和也
中村孝秀、樋口典明

以上 17 名 (敬称略)

3. 今年度行動計画委員会の狙いと行動計画について<高瀬委員長より>

「狙い」

- ・地区のビジョン・行動計画を参考にして
- ・ガバナー補佐、地区全委員会のご協力を得ながら
- ・各クラブへのビジョン・行動計画作成意識を浸透させ
- ・城年度のクラブ報告書にはすべてのクラブが自クラブのビジョン・行動計画を記載できるようにしたい！

「行動計画」

- ・委員の所属グループのガバナー補佐、会長・幹事、会長エレクト・幹事エレクトを対象にグループ単位の＜出前セミナー＞をグループ所在地で開催する。
- ・委員をファシリテーターとして、グループディスカッション形式を中心とする。
- ・委員によるクラブへの＜卓話＞を呼び掛ける。

（9月4日神戸須磨ロータリークラブにて卓話 高瀬委員長＞

※この行動計画を少しでも繋げていくことで、各クラブで一気に進んでいくことと思う。（高瀬委員長談）

4. 開催済の出前セミナーからの反省、提案、今後の向けての意見交換（永瀬副委員長）

- ・阪神第1・第2グループ（7月26日）
- ・尼崎グループ（8月21日）
- ・阪神第3グループ（9月27日）

※・本日、第4回目の出前セミナーとなるが、方向性を変えず進めていきたい。

- ・「和田委員の話」を毎回していただいているが続けたい。
- ・今後も皆さんへ声を掛け、できるだけ参加していただくよう進めていきたい。

5. 11月10日（日）ロータリー研修デーについて（永瀬副委員長が説明）

- ・内容
- ・委員さんへの出席要請（ファシリテーターとして）

6. 今後の日程について

- ・11月10日（日）ロータリー研修デー（神戸国際会議場）
- ・11月28日（木）淡路グループ
- ・12月以降未定（但馬、東播第1・2・3、神戸第1・2グループ）

7. 閉会挨拶 白井務子ガバナーノミニエ

※本日の委員会資料を添付のこと

以上

2024-25 年度 第 3 回行動計画委員会 次第

2024 年 10 月 23 日(水) 15:00~16:00

ホテル日航姫路 真珠の間

議事進行 : 篠倉幹事

議事録作成 : 樋口委員

1. 開会挨拶 城ガバナーエレクト

2. 今年度行動計画委員会の狙いと行動計画 高瀬委員長
「狙い」
 - ・ 地区ビジョン・行動計画を参考に
 - ・ ガバナー補佐、地区全委員会のご協力を得て
 - ・ 各クラブへのビジョン・行動計画作成意識の浸透
 - ・ 城年度のクラブ報告書に全てのクラブが、
自クラブのビジョン・行動計画を記載できるように！「行動計画」
 - ・ 委員の所属グループのガバナー補佐、会長・幹事、エレクト・幹事を対象に
グループ単位の<出前セミナー>をグループ所在地で開催する
 - ・ 委員をファシリテーターとして、グループディスカッション形式を中心する
 - ・ 委員による、クラブへの<卓話>を呼びかける
(9月4日神戸須磨ロータリークラブにて卓話 高瀬委員長)

3. 開催済みの出前セミナーからの反省、提案、今後に向けての意見交換 永瀬副委員長
 - ・ 阪神第1・第2グループ (7月26日)
 - ・ 尼崎グループ (8月21日)
 - ・ 阪神第3グループ (9月27日)

4. 11月10日(日) ロータリー研修デーについて 永瀬副委員長
 - ・ 内容
 - ・ 委員さんへの出席要請 (ファシリテーターとして)

5. 今後の日程について 永瀬副委員長
 - ・ 11月10日(日) ロータリー研修デー (神戸国際会議場)
 - ・ 11月28日(木) 淡路グループ
 - ・ 12月以降未定 (但馬、東播第1・2・3、神戸第1・2グループ)

6. 閉会挨拶 白井ガバナーノミニ

以上

ロータリーのビジョンと戦略計画について(1)



戦略計画委員長 矢野 宗司 (加古川中央)

高瀬ガバナーの要請に基づき、今月から4回にわたって、ロータリーのビジョンと戦略計画について述べていきます。

ロータリーで戦略計画という言葉が登場するのは最近の事ですが、ロータリーはその当初から戦略の蓄積の上に成り立っているものと言えます。今月はロータリーの戦略の歴史について触れていきます。

1. 初期のロータリーの戦略

親睦と物質的相互扶助を目的に社交クラブとして誕生したロータリーの最初の戦略は、その目的を達成するために、定期的な例会の開催と一業種一会員制にしたことです。これは初期ロータリーの大きな特性となり、その閉鎖性ゆえにロータリーの会員は等比数列的に増加し、シカゴ以外にも拡大していきました。

そして、第2の戦略はロータリーの目的に「奉仕」を加えたことです。それによってロータリーは単に自らの利益を求めるエゴイズムの集団ではなく、確固とした市民権を得ることになりました。さらに、ポール・ハリスがロータリーの拡大を目指して、1910年に全米ロータリークラブ連合会を設立したことによって、ロータリーは一都市にとどまらず、やがて世界に拡大していきます。とりわけ、1910年代は今日のロータリーの基軸となるものを提案するロータリアンが次々生まれました。まず、シエルドンとコリンズです。のちにロータリーのモットーとなる「One profits most who serves best」「Service above self」の原型を作った彼らによって、奉仕の理念が提唱され、ロータリアンの共通の標語となり、その求心力を高めました。

さらに、1915年の「ロータリー倫理訓」の採択、翌年のガイ・ガンディガーの「Talking Knowledge of Rotary (ロータリー通解)」の出版により、ロータリーは職業倫理を向上させる運動として位置づけられることとなります。

また、国際ロータリークラブ連合会と名称を変えたのち、1915年には標準クラブ定款と模範クラブ細則を採用し、クラブ管理を標準化するとともに、地区制度、ガバナー制度を制定し、クラブへの管理体制を整備していきます。そして1917年にはアーチ・クランフがロータリー財団の前身となるロータリー基金を提唱しますが、当初は金銭的奉仕を第一義としないという考え方のため、あまり関心を示されませんでした。

2. 1920年代・30年代のロータリーの戦略

ロータリーの中では、これまで様々な対立がありました。初期の対立は「親睦派と奉仕派」の対立です。ポール・ハリスが全米ロータリークラブ連合会を設立したのも、これに起因すると言われています。そして、1922年、国際ロータリー(RI)と改称し、クラブ管理の抜本的な改正を行いますが、ロータリーはその運動のあり方で、奉仕における「理論派と実践派」の対立が激しくなりました。この対立を解消するために採択されたのが、決議23-34です。これによってロータリー理念、原則が確立されることになりました。

ロータリーが全米から世界に拡大する中で、ベルギーのオステンド国際大会ではロータリーの重要な戦略が打ち出されます。すなわち、それまで包括的に奉仕と呼ばれていたものを4大奉仕(のちに青少年奉仕が加わり5大奉仕に)

の部門に分けることを承認したのです。これによって、奉仕の目標がより具体的、細分化されることになり、それが今日のロータリーの組織につながっていきます。また、1928年には「ロータリー財団」が設立され、財団活動が確立されることとなります。これらはそれ以後のロータリーの根幹となります。このロータリー運動を的確に表現しているのが、下記の「ロータリーの樹」です。



根に当たるのが、親睦クラブ奉仕、ロータリーの理念を吸収して、幹を太らせる。幹に当たるのが職業奉仕。ロータリーの根幹となる。枝や葉に当たるのが、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕（新世代奉仕）、花に当たるのがロータリー財団。そして、それらが多くの実を結ぶ。

また、1935年には規定審議会が発足し、ロータリーの唯一の立法機関となります。しかしながら1930年代の後半からは戦争の足音が近づく中、ロータリー運動は停滞します。

3. 第二次世界大戦後のロータリー

第二次世界大戦が終わると、ロータリーは国際奉仕を中心に活発な活動がスタートします。その原動力となったのが、ロータリー財団です。ポール・ハリスの死去に際して集まった多額の寄付により、ロータリー財団は世界理解と

平和のための様々なプログラムを提供します。国際親善奨学生、GSE（研究グループ交換）、3H（Health, Hunger, Humanity）補助金プログラムなどです。そして、3Hプログラムから1985年、ポリオプラスが生まれました。ここからロータリーは国際ロータリー（RI）理事会主導が強まり、プログラムも単年度制から継続性重視に変わっていきます。1991年には「国際ロータリーの使命」を発表し、団体奉仕活動が提唱されます。また、ロータリー運動もロータリー財団の寄付金への依存が高まっています。

1962年、50万人だった会員は1986年には100万人を超え、日本も10万人を超えました。ここで、急激な会員増強とクラブ拡大に対する戦略として生まれたのが、長期計画委員会、のちの戦略計画委員会です。それ以後、ロータリーは体制強化のために、様々な改革を行います。その一つが2002年、地区に義務的実施となった地区リーダーシッププラン（DLP）です。さらに2004年、クラブリーダーシッププラン（CLP）が推奨クラブ細則として発表されます。いずれも2005年のロータリー創立100周年を踏まえたロータリーの第2世紀への体制強化であります。

4. 国際ロータリーの戦略計画委員会の経過

2002～2003年、国際ロータリー（RI）理事会はRI戦略計画を提案し、全地域のロータリー活動の現状を調査、翌年、RI戦略計画委員会が設置されます。そして、2007年、理事会は戦略計画委員会の提案を承認し、2010年7月に3つの優先項目と中核となる価値観、ビジョンをもとにした戦略計画が発効されます。さらにその後の調査でロータリアンはRI戦略計画における方向性が適切で、優先項目とその目標を強く支持していることが確認されます。

次号はこれを踏まえて国際ロータリー並びにロータリー財団のビジョンと戦略計画、さらに昨年度、地区戦略計画委員会で作成した地区のビジョンと戦略計画について述べていきます。

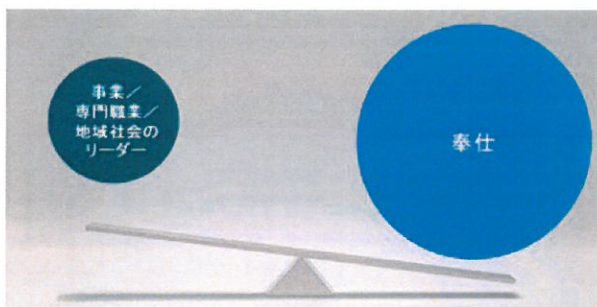
ロータリーのビジョンと戦略計画について(2)

1. 国際ロータリーのビジョンと戦略計画

2010年、国際ロータリー（RI）理事会は戦略計画としてロータリーのビジョン、中核的価値観、3つの優先項目を採択しました。そして、ロータリーのビジョンは

私たちは、世界中の地域社会における人々の生活の改善に貢献するため、活発で行動力のあるクラブから成り、人々から選ばれる奉仕組織である。

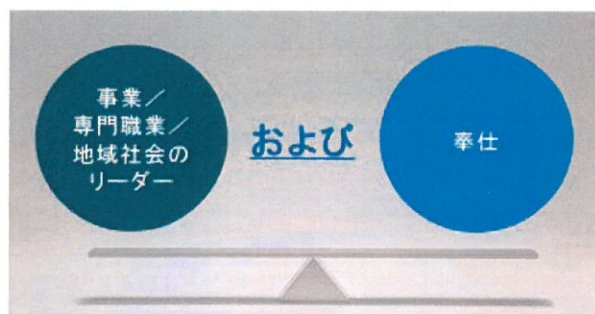
とされました。すなわち、ロータリーは人道的奉仕団体として位置づけられることになりました。



しかしながら、ロータリーを人道的奉仕団体としてのみとらえる一元的な考え方に対して、とりわけ、日本では違和感を感じるロータリアンも多数いました。多くのロータリアンは奉仕をするためにロータリーに入会するのではなく、ロータリーに入会することによって、親睦を深め、そして奉仕の機会を得、奉仕の理念を学び、奉仕の実践を行うのであり、その会員基盤こそがロータリーの魅力であります。

また、ロータリーにとって不変の価値観として中核的価値観、すなわち、親睦（Fellowship）、高潔性（Integrity）、多様

性（Diversity）、奉仕（Service）、リーダーシップ（Leadership）が明示されましたが、これらはどれを欠いても、ロータリーの優位性はなくなります。その後、RIは会員基盤を重視することにより、下記のような考え方に変わりました。



また、RIは行動指針として

1. クラブのサポートと強化
2. 人道的奉仕の重点化と増加
3. 公共イメージと認知度の向上

の3つの優先項目を掲げ、そのもとに16の目標を定めました。

さらに、2015年10月のRI理事会は下記の事に同意しました。

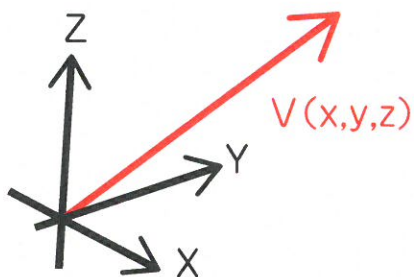
ロータリーは時代に追いついていかなければならない

ロータリーは時代に適応しなければならぬ

ロータリーは将来への備えができていなければならぬ

これにより、ロータリーは時代への対応として、**多様性、柔軟性、革新性**をキーワードに進むこととなります。近年、急速に変化するRIの方向性は、すべてこのキーワードによるものです。それが具体的な形で現れたのが、2016年の規定審議会でした。そこでは、多様性、柔軟性を強調した大改革が行われました。

国際ロータリーのベクトル



X 多様性 Y 柔軟性 Z 革新性

そして、新たに出されたのが2017年の新しいビジョン声明です。

私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。

ここでは「奉仕組織」という表現は消え、「世界を変える行動人 (People of Action)」という表現に変わります。また、新しいビジョン声明を実現するため、今後5年間のロータリーの活動の指針となる4つの優先項目が定められました。

1. より大きなインパクトをもたらす
2. 参加者の基盤を広げる
3. 参加者の積極的なかかわりを促す
4. 適応力を高める

の4項目です。そして、そのもとに14の目標を掲げました。

2. 地区のビジョン

この新しいビジョン声明と新たな優先項目を受けて、前年度、浅木ガバナーの要請のもと、地区戦略計画委員会は地区のビジョンと戦略計画を作成しました。この作成には当時の浅木ガバナー、高瀬エレクト、吉岡ノミニー、さらに委員として阪上現ノミニーも携わっており、この地区のビジョンと戦略計画は4代にわたるガバナーによって承認を得たこととなります。

これまでロータリーは単年度制が重視されてきました。地区のガバナーしかり、クラブの会長しかり、いずれもその年度は自らの信念に基づいて運営をします。しかしながら、単年度制

による運営にはロータリーの未来像が欠如します。将来を見据えたビジョンを備えなければ、その年度のリーダーの単なる自己満足の実現だけに終わってしまうリスクもあります。今、ロータリーに求められているのは、確かなビジョン、まさにロータリーの未来への絆であります。

地区ビジョンは国際ロータリーの新しいビジョン声明を踏まえながら、当地区の伝統と特性を踏まえて作成されました。

私たちはロータリーの「奉仕の実戦」・「中核的価値観」を推進し、自らの人間力を高め、活気にあふれ、魅力あるクラブを目指し、地域社会や世界に持続可能な良い変化を生むために行動します。

地区ビジョンの核になるのは、「奉仕の実戦」・「中核的価値観」の推進です。人道的奉仕を実践し、かつロータリーの普遍的価値観である「親睦」・「高潔性」・「多様性」・「奉仕」・「リーダーシップ」の推進はロータリーという組織のあり方と方向性を定める原動力であり、ロータリーが他の団体に対して持つ優位性であります。それによってロータリアンが人間力を高め、活気にあふれ、魅力あるクラブを形成することによって、地域社会や世界に持続可能な変化をもたらすことができます。このような思いから地区ビジョンは作成されました。

また、地区ビジョンはクラブのビジョン作りの指標でもあります。是非、各クラブがクラブの伝統並びに会員のコンセンサスを踏まえることにより、クラブ独自のビジョンを作成して下さい。そして、そのビジョンを具現化するための戦略計画、行動計画をしっかりと立てて下さい。

クラブが明確なビジョンと戦略計画を立てることにより、会員の満足度が高まり、ロータリーの将来に対する肯定的、楽観的な考えも増加していきます。

次回はこれを踏まえて、地区の戦略計画（行動計画）とクラブの戦略計画について触れていきます。

ロータリーのビジョンと戦略計画について(3)

1. 地区の戦略計画

前号で触れた地区ビジョンを踏まえて、浅木年度において次の4項目の地区戦略計画（行動計画）が作成されました。地区の現況を踏まえながら、地区の戦略計画について説明していきます。

① 会員基盤

会員基盤の多様化を図り、地区全体の会員数を3,000人台に回復する。

会員基盤の多様化とは、主に女性会員と40歳以下の若手会員比率の向上並びにより多岐にわたる職業と社会的背景を持った会員構成です。とりわけ当地区では女性会員の比率の低さが目立っています。

現在の世界のロータリーにおける女性会員の割合は23.77%、一方、日本は7.04%となっており、日本のロータリーの特異性が際立っています。さらに当地区は日本の地区の中で2番目に低い4.58%、地区内では世界標準に近い20%以上のクラブは5クラブ、10%以上になると16クラブ、また、女性会員0のクラブは29クラブとなっています。（※2020年11月末現在）すなわち地区内の約40%のクラブがロータリーを今もって男社会とみなしていることとなります。

1989年の規定審議会で「ロータリークラブの会員は男性に限るとするRI定款の要件を削除する」という決定がなされ、後にRI会長となったフランク・J. デブリンは「私たちが忘れてはならないのは1905年と1989年はまるで別世界であるということです。ロータリーは移り行く世界に足並みをそろえるべきだと思います。」

と述べましたが、今もって同じ景色を見ているクラブが多く、世界の流れから隔絶しているということも、是非はともかく歴然とした事実であります。2020年9月のRI理事会は、「RIとゾーンの会合の講演者の60%以上を同一のジェンダーで占めないことに同意した。」と決定し、ますますその流れを加速しています。

また、会員数においては、2010年6月末の3,007人を最後に、3,000人を割り、COVID-19の影響もあって、2020年6月末では2,659人となってしまいました。10年間で10%以上の減少です。最盛期である1994年6月末の4,246人の約63%、企業で言えば売上がここまで減少すれば倒産です。地区としては地区内の会員数3,000人を象徴的な数字と捉えます。各クラブが純増1名、特に会員数50人以上のクラブが純増2名を3年間継続することによって、目標が達成されます。それはまさに地区の再生を意味します。

② 奉仕の実践

- ・ **クラブ奉仕**：My ROTARYの登録率75%以上を目標とし、ロータリーのIT化を推進する。
- ・ **職業奉仕**：当地区の誇る職業奉仕の理念を継承し、発展させる。
- ・ **社会奉仕**：全クラブが地区補助金奉仕プロジェクトを実施するように推進する。
- ・ **国際奉仕**：毎年5クラブ以上がグローバル補助金（人道的プロジェクト・VTT・奨学金）のいずれかを実施するように推進する。

- ・ **青少年奉仕**：青少年に関する3つのプログラム（インターアクト・RYLA・青少年交換）を積極的に推進し、ローターアクトとの連携を深め、次世代につなげる。

My ROTARYの登録率は1月10日現在65.50%、全地区の中でもトップクラスですが、2018-19年度に驚異的な伸び率で62.08%になってからは伸び率が鈍化しています。情報は与えられる時代から自ら求める時代になっています。ロータリーのIT化も踏まえてより一層の推進が必要です。

職業奉仕については、最近RIではほとんど触れられていません。職業人を謳った「ロータリーの目的」も職業を有しないローターアクトがRIの一員となることによって、今後変わる可能性があると言えます。一方、当地区では奉仕理念に卓越した人材を多く輩出しており、それをしっかり継承、発展させていくことが肝要です。

社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕については、多くのロータリアンが、所属クラブがより多くのプロジェクトやプログラムに参加することを望んでおり、十分に参加しないクラブは、参加意欲の低下や会員減につながる恐れがあることが指摘されています。

③ 研修

ロータリアンが中核的価値観を推進し、人間力を高める研修の充実、強化を図るよう努める。

地区に対して、個々のクラブでできない研修の充実、強化を求める声が各クラブから多く寄せられています。それに対応するため、地区ではより研修機能を充実、強化していきます。

④ ロータリー財団、米山記念奨学金の充実

地区運営方針に基づく寄付目標を達成するように推進する。

紙面の都合で一部詳細な説明は省略しましたが、この4項目が地区の戦略計画（行動計画）で、これは今後ガバナーの地区運営方針に反映されていきます。しかしながら、地区の戦略計画はあくまでも個々のクラブの活動が活性化されることによって達成されるものであります。

2. クラブの戦略計画

2016年の規定審議会で標準ロータリークラブ定款に「クラブの目的」が新たに加わりました。この改定はRIがクラブの自治に関与するものであるとの異論もありましたが、これによってクラブの目的が成文化され、明確になったのも事実であります。

標準ロータリークラブ定款第3条 クラブの目的

1. 「ロータリーの目的」の達成を目指すこと
2. 五大奉仕部門に基づいて成果あふれる奉仕プロジェクトを実施すること
3. 会員増強を通じてロータリーの発展に寄与すること
4. ロータリー財団を支援すること
5. クラブレベルを超えたリーダーを育成すること

クラブが戦略計画を立てる際は、この「クラブの目的」に沿った具体的な計画が必要になります。まず、クラブの魅力ある将来像をビジョンで示し、それに基づいた計画です。

また、クラブで戦略計画委員会を設立する際は、継続性の観点から会長、直前会長、会長エレクト並びにそれぞれの幹事が構成員であることが望ましく、さらに、女性会員やクラブの将来を担う入会年度の新しい会員を加える多様なメンバー構成によって、委員会は活性化されます。次号ではクラブの戦略計画の進め方について具体的に触れていきます。

ロータリーのビジョンと戦略計画について(4)

1. クラブの現状分析

クラブの戦略計画を立てる際に、まずクラブの現状認識が重要になります。RIでは資料として「クラブの健康チェック」がありますが、それをベースにより日本の状況に合う形で、前年度、クラブ管理運営委員会の協力の元、「クラブの持続可能性チェック」を作成しました。これは前号で触れた「クラブの目的」を踏まえて、クラブが今後も持続していくための必要な要素を5つの分野に分類し、それぞれ10項目を挙げたものです。ぜひ一度チェックをして自分のクラブの現状を分析してみてください。

クラブの持続可能性チェック

(1) クラブ管理運営

- 例会の欠席者に定期的にフォローをしている。
- 例会の内容は、興味深く、多様性に富んでおりマンネリ化していない。
- 親睦や交流を目的とした集まりを例会以外に定期的に開いている。
- 家族がロータリーに参加する機会を積極的に設けている。
- クラブのビジョン並びに戦略計画を立てている。
- 理事会は、改善すべき点には随時変更を取り入れ、クラブ細則を更新している。
- 年次目標を定め、これをロータリークラブ・セントラルに入力している。
- 毎年、会員満足度調査を行っている。
- 常に新しいことに挑戦している。
- 危機管理委員会を設けている。

(2) クラブの奉仕活動と公共イメージの向上

- ロータリーの重点分野や奉仕部門に沿った奉仕プロジェクトを実施している。
- 地区補助金奉仕プロジェクト2回以上申請して

いる。

- 実施するプロジェクトを決める前に地元のニーズをしっかりと調査している。
- グローバル補助金プロジェクトあるいはVTTまたは奨学生を提唱したことがある。
- ローターアクト/インターアクトクラブを提唱している。または、青少年交換学生の派遣/受け入れをしている。
- RYLA参加者を支援している。
- ウェブサイト、フェイスブックページ、そのほかのソーシャルメディアページを作り、定期的に更新している。
- 地元メディアで過去5年間に3回以上クラブの活動が取り上げられている。
- 地域社会でクラブの存在がよく知られている。
- 地元の人々や入会候補者に渡すためのパンフレットを用意している。

(3) 会員増強とクラブの多様性

- 過去3年間に会員が3名以上純増した。
- 過去3年間でクラブの会員の平均年齢は上がっていない。
- 過去3年間で女性会員が純増した。
- 過去3年間で40歳未満の会員が純増した。
- 過去3年間の退会者数は現会員数の20%未満である。(※転勤による退会は除く)
- 過去3年間で入会3年未満の退会者はいない。(※転勤による退会は除く)
- 退会者に対して調査を行っている。
- クラブの会員の平均年齢は65歳以下である。
- まだ会員がいない職業分類の新会員を募ることに努めている。
- 過去3年間で新たな職業分類を設けた。

(4) クラブと会員の参加意欲

- ホームクラブでの例会の出席率(メークアップ

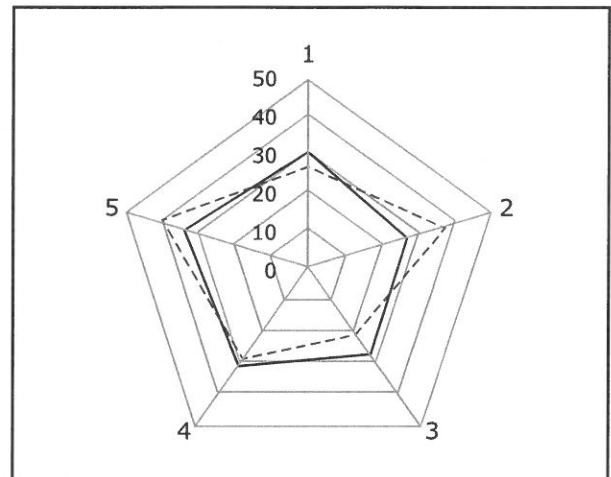
を除く)が80%を超えている。

- 年間例会出席率が90%を超えている。
- 役員以外の会員も地区や国際的なロータリー行事に積極的に参加している。
- 姉妹クラブ等を提携して、ネットワークを広げている。
- My ROTARYの登録率が60%以上である。
- 多くの会員がMy ROTARYを利用して、情報を入手している。
- 多くの会員がロータリーの友やガバナー月信を積極的に読んでいる。
- 地区に積極的に委員を出している。
- 各委員会が定期的に会合をしている。
- クラブ内に同好会がある。

(5)ロータリー財団並びに米山記念奨学会への貢献

- 前年度のロータリー財団年次基金への寄付が1名あたり100ドル以上である。
- 多くの会員がロータリー財団の仕組みについて理解している。
- 多くの会員がロータリーのポリオ根絶活動とその進展について知っており、ロータリーの一員として貢献していることに誇りを抱いている。
- 多くの会員がロータリー財団に好意的である。
- ロータリー財団月間において、会員の啓発を行っている。
- 前年度の米山記念奨学会への寄付が1名あたり10,000円以上である。
- 過去3年間に米山記念奨学生を受け入れたことがある。
- 多くの会員が米山記念奨学会の仕組みについて理解している。
- 米山記念奨学生と終了後も交流を持っている。
- 米山月間において、会員の啓発を行っている。

次のグラフは各項目を10点（どちらとも言えないを5点）として、アンケートによる地区内クラブの平均を実線で示したものです。点線は私の所属する加古川中央RCの現状分析で、これを見ると地区内クラブの平均と比較して、クラブの奉仕活動と公共イメージの向上、及びロータリー財団並びに米山記念奨学会への貢献度は高く、会員増強とクラブの多様性については低いことがわかり、クラブの持続性を図る点での課題が浮かび上がってきます。



2. クラブの持続可能性

クラブが運動体である以上、常に様々な問題に直面します。そういう中でクラブが明確な方向性（ベクトル）を持つことによって、クラブはしっかりと持続していきます。そのために必要なのがクラブのビジョンと戦略計画です。高瀬ガバナーが公式訪問の際に調べたところでは戦略計画委員会を設置しているクラブは地区内の37%で、約3分の2のクラブは設置していません。RIが「多様性、柔軟性、革新性」をキーワードに大きく変化しようとしている時代にあって、クラブが明確なビジョンと戦略計画を持たなければ、その独自性を維持することができず、変化に主体的に対応できずに、いたずらにRIの変化を憂うだけになってしまいます。

また、クラブもその規模は様々であり、よって立つ地域の特長も違います。何もすべてのクラブが金太郎飴のごとく均一である必要もありません。例えば、青少年奉仕に特に力を入れるクラブもあれば、奉仕の理念をしっかりと学び会員の研修に力を入れるクラブ、地域のための奉仕プロジェクトに積極的に取り組むクラブなど、個性あるクラブもまた魅力の一つです。クラブの現状分析の元、クラブの弱みを克服することに注力するもよし、あるいはクラブの強みをより生かすことによってクラブの魅力をさらに強くするもよし、まさにクラブの戦略次第であります。

来たる〇〇周年をそれぞれのクラブがより発展して迎えられることを祈念して、稿を閉じさせていただきます。

地区ビジョンと行動計画について

次期行動計画委員会 委員長

高瀬 英夫 (西協RC)



Build the future with action and vision
築け未来を 行動力と先見の眼で

私の入会年度
1996-97年度RI会長
ルイス・ピアンデ・ジアイ
(アルゼンチン・アレシフアSRC)

クラブのビジョン・行動計画作成について 行動計画委員会からお願い

「未作成のクラブは独自のビジョン・行動計画を下記参考を作成してください」
「既に作成済みのクラブは毎年度理事交代の度に見直し、全会員で共有してください」

- ① RIおよび地区ビジョン・行動計画を参考に。
- ② 地区の各委員会（EX、クラブ管理運営、ロータリー財団、会員維持増強、公共イメージ向上、社会奉仕委員会ETC）と連携して。
- ③ 未作成クラブの行動計画委員が自クラブのビジョン・行動計画作成に取り組んだ所、ぼんやりとしていた自クラブの強味、地域で期待されている特色、目指すべき方向が明確になったとの報告がありました。この一歩なくしては何も始まりません。まず一歩を踏み出しましょう。
- ④ 例会卓話に行動計画委員会 委員をお呼びください。



2008-09年度RI会長
李 東 健
(韓国・ソウルRC)

Make Dreams Real
夢をかたちに



**2020-21年度RI会長
ホルガー・クナーク**
(ドイツ ヘルツォークトウム・ラウエンブルグ・メルンRC)

Rotary Opens Opportunities
● ローターリーは機会の扉を開く


単年度から複数年度へ

1985年 ポリオ・プラス計画
RI主導型奉仕活動⇒単年度から継続性重視へ

2023年11月 国際ロータリー(RI)理事会の決定事項
・2025-26年度から、会長の年次テーマとロゴの作成を廃止することに同意
※1953年～ RI会長エレクトが国際協議会で短いテーマを発表
2024-25年度テーマ「ロータリーのマジック(The Magic of Rotary)」

・コミュニケーション委員会と行動計画委員会が提案し、理事会が承認した2025-26年度からの
複数年にわたる**行動計画**を軸とした会長メッセージの枠組みを承認
・2024-25年度からクラブ、地区、ゾーンレベルの**3年間の段階的なターゲットと3年間の段階的な
地域計画**を設定するプロセスを承認

今後、ロータリーは単年度ごとにクラブの会長が方針を決める流れから大きく変化する。
⇒単年度ではなく、複数年度にわたるクラブのビジョンと行動計画(行動計画)が不可欠に
会長ノミニニーの選出を早める必要？
単年度制からの脱却⇒**クラブ復活のチャンス**
クラブをしっかりとデザインし、ビジョンを明確にし、具体的な行動計画(行動計画)を立てよう。



**2023年地区研修・協議会
ガバナー・エレクト・ミニニ3者対談**



Rotary

D DEI: Diversity Equity Inclusion
E Evolution (進化)
S Service (奉仕の実践)
I Inspiration (インスピレーション)
G Generosity (寛容)
N Nobility (高潔さ)

RIビジョン声明

私たちは、世界で、
地域社会でそして自分自身の中で、
持続可能な良い変化を生むために、
人びとが手を取り合って行動する
世界を目指しています。

地区ビジョン声明

私たちは、ロータリーの「奉仕の実践」・「中核的価値観」を推進し、自らの人間力を高め、活気にあふれた魅力あるクラブを目指し、地域社会や世界に持続可能な良い変化を生むために行動します。

第2期地区ビジョン・行動計画

2680地区行動計画(2023-2026年)

- 1. より大きなインパクトをもたらす
 - ローター財団補助金を活用し、地域社会や世界で良い変化を生み出すインパクトのある奉仕プロジェクトを実践する。
 - ローター財団、社会奉仕、国際奉仕、奉仕プロジェクト
 - ローターのブランドと公共イメージの向上に努める。(公共イメージ向上)
- 2. 参加者の基盤を広げる
 - クラブの会員組織強化に努め、仲間を増やす。(会員維持増強・クラブ管理運営)
 - 多様な人々の参加を促し、DEI(多様性・公平さ・インクルージョン)を実現する。(クラブ管理運営、DEI)
 - 青少年の活動を支援し、若いリーダーの育成に努める。(青少年奉仕、米山記念奨学、学友、RAC)

第2期地区ビジョン・行動計画

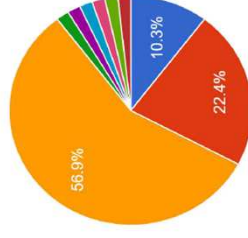
2680地区行動計画(2023-2026年)

- 3. 参加者の積極的なかわりを促す
 - 全クラブが将来のビジョンや行動計画を策定する。(クラブ管理運営、規定審議)
 - My ROTARYの登録を推進し、積極的に活用する。(クラブ管理運営)
 - 地区やクラブが実施する行事やセミナーに積極的に参加し、感動的な体験を積み重ね、ロータリーの理解を深める。(クラブ管理運営、研修)
- 4. 適応力を高める
 - オンライン技術の能力を高め、社会の変化に迅速に適応する。(クラブ管理運営、研修)
 - ハラスメントのない環境作りに努める。(クラブ管理運営、危機管理)

2023年11月 行動計画委員会セミナーアンケート

クラブのビジョン・戦略計画アンケート2023

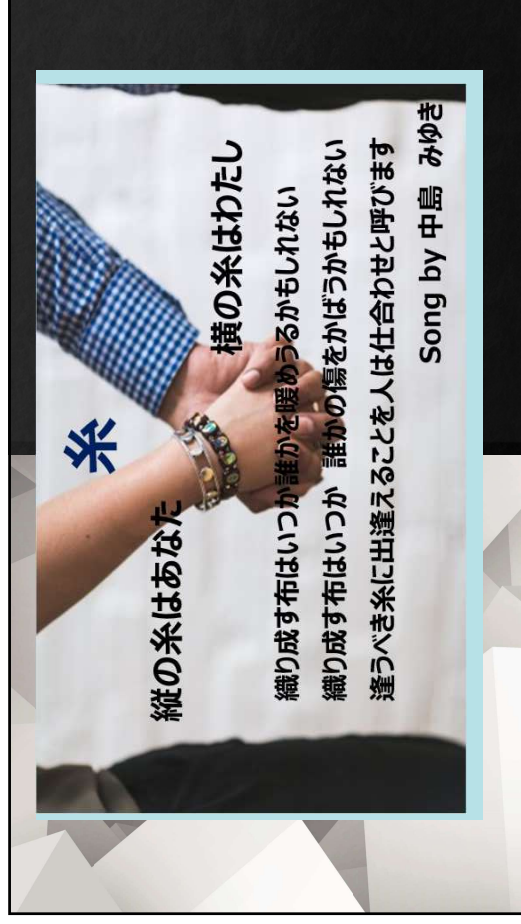
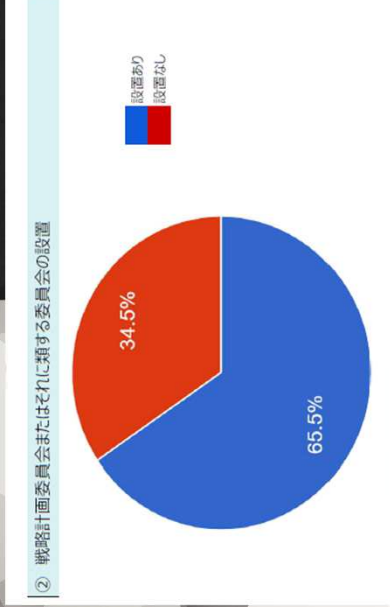
① クラブのビジョン・戦略計画の作成状況について



- その他...
- ・委員会での検討事項
 - ・毎年、11月の理事会を行い、更に会長、工友の2回協議をもち進んでいる
 - ・内容を検討中
 - ・今後の計画はなし
 - ・残念ながら戦略計画の作成できていない、今後検討する
 - ・2021-22年度にクラブの持続可能性をテーマに会員満足度調査を実施し、その結果を元に現状分析を行い、クラブのビジョン・戦略計画の作成に向けて準備中

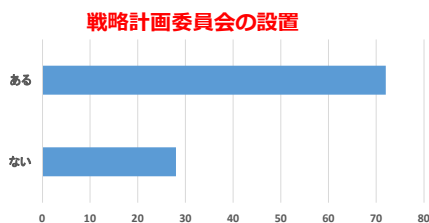
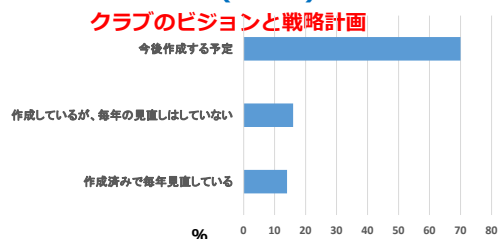
回答 ... 58クラブ
未回答... 10クラブ

2023年11月 行動計画委員会セミナーアンケート



クラブのビジョンと戦略(行動)計画の重要性

戦略計画セミナー(2023)でのアンケート



クラブの持続可能性(50のチェックポイント)

1. クラブ管理運営
2. クラブの奉仕活動と公共イメージの向上
3. 会員増強とクラブの多様性
4. クラブと会員の参加意欲
5. ロータリー財団並びに米山記念奨学金への貢献

ロータリーが運動体である以上、必ず様々な問題が生じる。

ロータリーが持続可能であるためには、そのためのビジョンと戦略計画(行動計画)が必要

クラブのビジョンと戦略(行動)計画の重要性

■クラブのビジョンと戦略(行動)計画の作成

会員が充実したロータリーライフを享受することができ、魅力的なクラブにするために、理想のクラブ像としての理念を共有する。

- ・私たちのクラブの存在価値は何か
- ・私たちのクラブはどういうSERVICEで社会に貢献しようとしているのか
- ・私たちのクラブは会員や地域社会にとって本当に魅力的か
- ・私のロータリアンとしての目標は何か

■クラブのビジョン・戦略(行動)計画策定のポイント **CHANGE→CHANCE**

- ・クラブが元気になるビジョンであること
 - ・クラブの現状と課題を明らかにすること
 - ・クラブの英知を集めること
 - ・世界のロータリーと協調できるビジョンであること
- G-T(Trouble)→C
 変化には困難が常に伴う、その困難を一つ一つ
 取り除いていくとチャンスが生まれる



クラブは時代に追いついていかなければならない
クラブは時代に適応しなればならない
クラブは将来への備えができていなければならぬ

クラブのビジョンと行動計画を作ってみました

地区行動計画委員会委員 和田孫博（神戸東灘RC）

- ◇前年度まではクラブに戦略計画委員会があったが、
ビジョンや戦略計画は策定していなかった
- ◇地区戦略計画委員会の委員として
2023-2026地区ビジョン戦略計画の策定に参画
戦略計画の3の1つ目に
「全クラブが将来のビジョンや戦略計画を策定する」
- ◇クラブ内のビジョン戦略委員会の構成を相談
会長・会長エレクト・会長ノミネー予定者・
幹事・次期幹事予定者を含んで構成
- ◇他クラブの会員満足度アンケートを参考に
8/21/2024 **会員へのアンケート**を実施



Rotary Club

8/21/2024

Q1.あなたは神戸東灘RCに受け入れられていると感じますか？



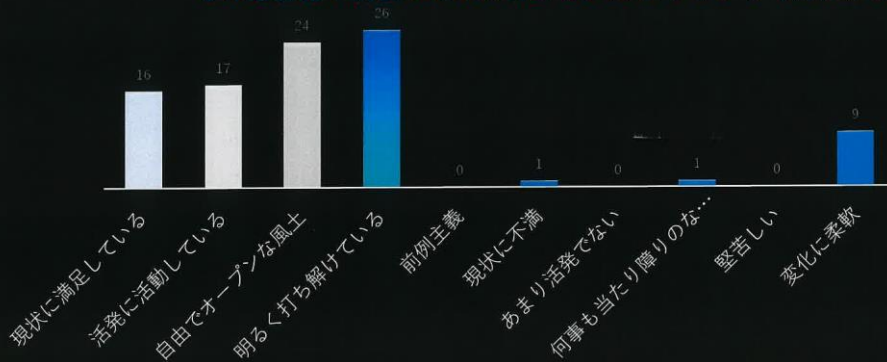
素敵です！！

補足：27名中お1人白紙回答がございました。COUNTしておりません。

8/21/2024

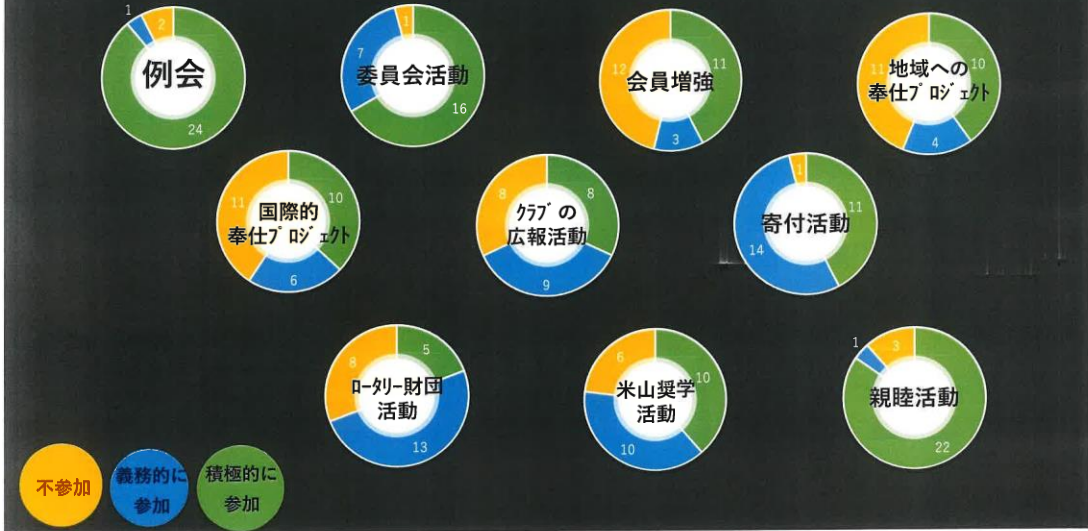
Q2.あなたは神戸東灘RCの組織としての現状をどう思いますか？

その他意見：例会のみのお付き合いになっている可能性がある



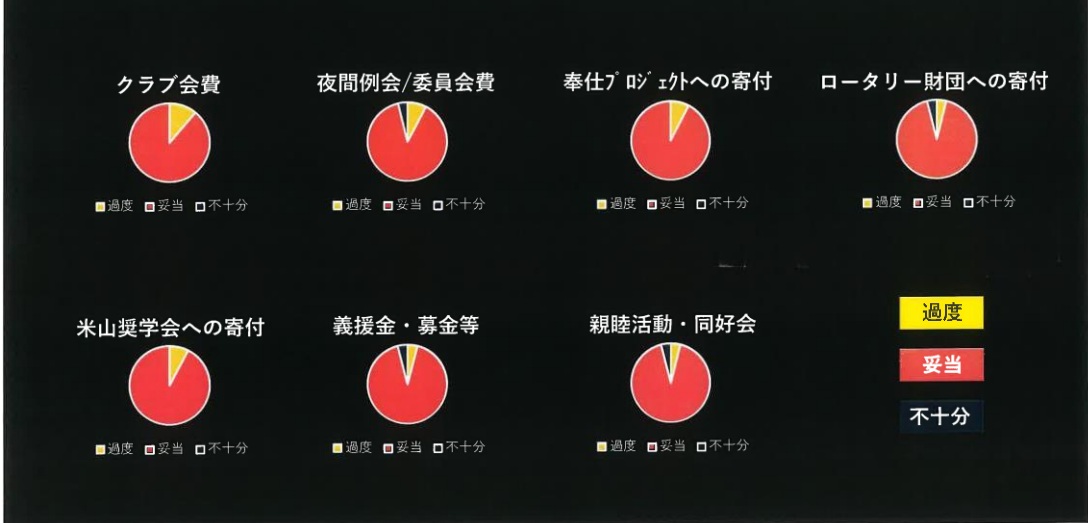
8/21/2024

Q4.神戸東灘RCの活動に対するあなた自身の参加状況。



8/21/2024

Q6.下記の会員活動に関する費用をどう思いますか？



8/21/2024

Q7. あなたは毎日の例会を楽しまれていますか？

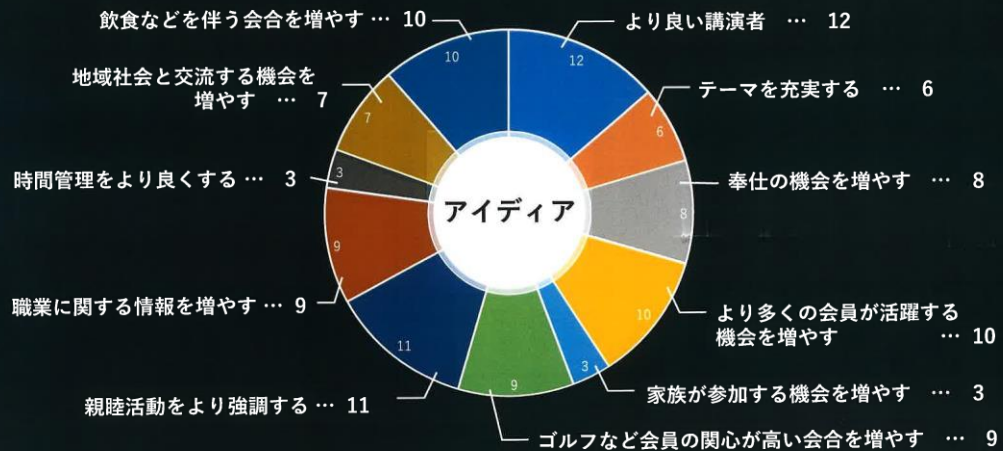
😊 はい 25

😐 いいえ 0

😞 どちらともいえない 1

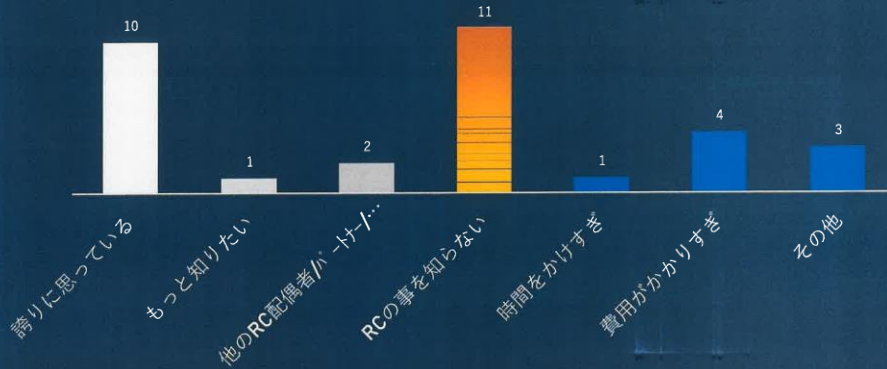
8/21/2024

Q8. 神戸東灘ロータリークラブの会合をより良いものにする 為のアイデアをお聞かせください。



8/21/2024

Q9.あなたの配偶者/パートナー/家族はあなたがロータリーに参加していることに関してどのように思っていますか？



8/21/2024

●現状分析

- ・ 9割の会員がクラブ運営・活動にある程度満足している。
- ・ Diversity (多様性) に富んでいる。
 - (・ロータリー歴 5年未満 43%、5年～10年 22%、10年以上35%)
 - ・ 職業分類も多様 ・ 女性比率も6/31
 - ・ 年齢構成は30代～80代までバランス良く分布している)

●長所と短所

- ・ 社会貢献や寄付は当クラブの規模なりにできている
 - ⇔ クラブ規模が小さい分、予算に限りがある
- ・ 年齢による縦の関係意識がなくフレンドリーな雰囲気
 - ⇔ 強いリーダーシップあるメンバーがいない
- ・ 例会内での節度ある親睦が中心で心地良い
 - ⇔ 例会を超えた深い付き合いがない
- ・ メンバー同士の職業付き合いが少なく利害関係の雰囲気なし
 - ⇔ メンバー同士の関係性が薄い

●地域社会にある機会と課題の特定

当クラブは関西屈指の文教地区・多子地区にあり、教育関係のメンバーも多いため「青少年奉仕」を核に従前の活動の充実と新たな展開を模索する

2023—26 神戸東灘RC・ビジョン声明

「東灘RCに所属して良かったという会員同士の深いつながりの中、青少年奉仕を核に、地域社会の平和・発展のためのロータリー活動を継続する」

・ビジョン優先事項

深い絆で結ばれた親睦

⇒ 同好会や10年未満会員同士の例会外での親睦を増やす

奉仕活動

⇒ 当面は少ない予算でもインパクトある地域奉仕活動に絞る
(青少年の「知育・徳育・体育」の向上に繋がる奉仕活動など)

会員増強

⇒ 入会しやすい環境作り

(会費や例会のあり方の検討・賛助会員規定の策定など)

8/21/2024

年次行動計画

▶ステップ1(1年目)

これまで青少年活動を実働していた会員を中心に、
地域ネットワーク・地域環境・地域問題を現実的、具体的に把握する
おまつり・子ども会・地域クラブ・婦人会活動など
(金銭協賛だけでなく参加協力して顔が見える付き合いにする)

▶ステップ2(2年目)

各種活動のキーマンのクラブへの勧誘

(キーマンをクラブ顧問の形で賛助会員としての入会を求める)

▶ステップ3(3年目)

地域活動のノウハウとキーマンをもとに、各奉仕活動と連携し展開

- ・国際奉仕と：「海外に小学校を」「海外の子どもに支援品を」
「海外への留学援助」など
- ・職業奉仕と：「こども食堂運営に協力」「フードバンクに協力」など
- ・社会奉仕と：「少年野球大会に協力」「ボーイスカウトと清掃活動」など